

今、**大ピンチ!**
学校が



参加無料

(事前申込必須)

会場参加

先着120名

(オンライン参加は人数制限なし)

これからの

教職員の働き方を考える

フォーラム

全国各地の学校で起きている教員不足。その要因の一つが教員の長時間労働です。
先生が人間らしく働き、子どもとじっくりと向き合うためにできること、
一緒に考えてみませんか。



各種メディアでおなじみ!

2023

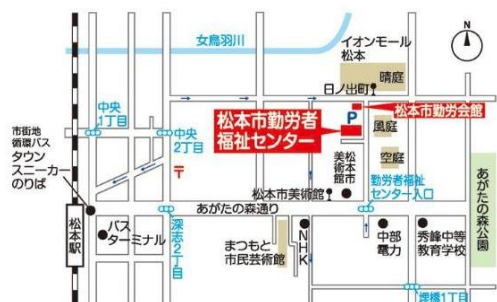
12/10 日

(開場 9:20)

9:45

12:00

松本市勤労者福祉センター 3-3 会議室



プログラム

9:20	開場
9:45	開会挨拶・基調提案
10:00	講演
11:20	意見交換・感想交流
12:00	閉会

講演

教育学者／名古屋大学教授

内田 良 さん

「学校のリスクを見える化する

～部活動改革から働き方改革まで～」

【内田 良さん プロフィール】

専門は教育社会学。学校のなかで子どもや教師が出遭うさまざまなリスクについて、調査研究ならびに啓発活動をおこなっている。ヤフーオーサーアワード2015受賞。著書『教育現場を「臨床」する』『ブラック部活動』他、共・編著多数。

申込先

- ◆定員に達し次第、申し込みを締め切ります
- ◆オンライン参加に人数制限はありません



長野県教組

QRコード読み取り または
「長野県教組」で検索!

12/3 必切

※申し込み完了後、メールが自動返信されます。
メールが届かない場合はお問い合わせください。

申込はお早めに

毎日、夜遅くまで学校の
電気がついていました。
早く帰るために、私たちが
できることは…



皆さんの思いを
お聞かせください!



先生の長時間労働の原因の
一つが「給付法」って
聞いたけど、どんな法律?
どこが問題?

主催

NTU Nagano Teachers & staff Union

長野県教職員組合

後援

松本市教育委員会／長野県PTA連合会／長野県高等学校教職員組合／長野県私立学校教職員組合連合／長野市立長野高等学校教職員組合／
長野大学教職員組合／長野県職員労働組合／長野県企業局労働組合

お問い合わせ

☎ 026-235-3700 ✉ ntu@ntu-net.com
🌐 <https://www.ntu-net.com>

「4月から担任の先生がいない」が 珍しくありません…



教員の欠員問題が年々深刻化し、全国各地の学校現場の厳しい実態が報告されています。文科省の最新の調査（2022年1月）では、小学校・中学校・特別支援学校合わせて、全国で2000人以上の教員が不足している状況が明らかになりました。本年度はさらに悪化しているとの報道もあります。「年度当初から担任がいない」「産育休の代替者がいない」など、かつてない大変な状況が生まれています。

社会問題化している「教員不足」を一刻も早く解消しなければ、学校そのものの維持ができなくなってしまうです。

2021年度始業日時点の教員不足の状況(全国)

	不足人数	不足が生じている 学校数	不足が生じている 学校の割合
小学校	1218人	937校	4.9%
中学校	868人	649校	7.0%
特別支援学校	255人	142校	13.1%

文科省『教師不足』に関する実態調査(令和4年1月)をもとに県教職員組合作成



残業代ナシ、休憩ナシ、 持ち帰って仕事、休日も仕事…

1カ月の超過勤務時間 試算

2023年6月 県教職員組合調査

項目	1カ月
①学校での時間外勤務	47時間36分
②持ち帰り仕事	10時間16分
③実際に取れない休憩時間	12時間36分
④週休日・休日の勤務	09時間56分
1カ月 合計	80時間26分

※端数は四捨五入

県教組が実施した勤務実態調査では、過労死危険性ライン水準の月80時間を超える超過勤務時間が明らかとなっています。これは、うつ病などの精神疾患で休職した教職員がここ数年全国で5000人を超え、高止まりの状況が続いていることにも結び付きます。

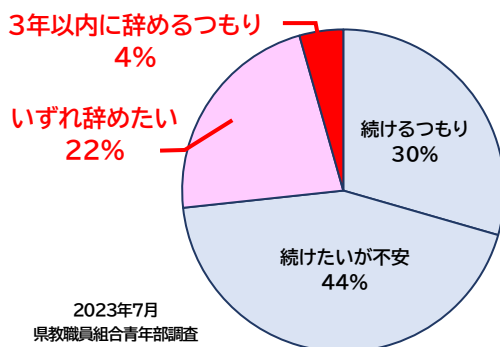
休憩時間も、約半数が「全く取れていない」と回答。この状況を何とかしなければなりません。



自分の時間も大事にしたいのに…

33歳以下の教職員を対象に行った調査では、「仕事を定年まで続けることについてどう考えているか」の質問に対し、26%の教職員が「3年以内に辞めるつもり」「いずれ辞めたい」と回答しています。「毎日の授業準備に加えて保護者対応、生徒指導と、いつもずっと仕事のことを考えてしまい、プレッシャー」「自分や家族の時間も大事にしたいけれど、その時間が取れない」・・・教職の仕事にやりがいを感じながらも、超過勤務が前提になっている現在の働き方に限界を感じ、それが将来への不安につながっています。

仕事を定年まで続けることについて



子どもの学びと教職員の健康を守るためにできること、
一緒に考えませんか？